

本の帯をつくろう

～ごんぎつね～

国語科

第4学年

育成を目指す資質・能力
【課題発見・解決力】

単元の概要

「ごんぎつね」は、中心人物のごんが兵十へのいたずらの償いを通して気持ちに変化する物語であり、兵十にごんが撃たれるという悲しい結末で終わる教材である。結末について考えさせるためには、ごんの気持ちの変化に着目して読むことで結末に対する疑問を解決することができる。そこで、本の帯を作るという目的をもって物語を読む活動を取り入れ、人物の行動や言葉、様子から気持ちの変化を読み取り、結末について一人一人が根拠をもとに自分の意見を持ち、それを帯作りに生かそうとする全体から学びの姿が見られた。

単元の目標

本の帯を作るために物語を読み、感じたことや思ったことを発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくことができる。



単元の計画（全11時間）

【課題の設定】（1）

- ・物語を読んで感じた気持ち、一番心に残った場面とその理由、疑問に思ったこと考えたことを伝え合う。
- ・「なぜこの結末になったのか」について考えるための学習計画を立てる。

【情報の収集】【整理・分析】（3）

- ・ごんはいいきつねか全場面を通して読み取る。
- ・いたずらから償いになるごんの行動の変化について考える。
- ・「つまらないなあ」と言いながら明るく日も兵十のうちに栗を持って行くごんの気持ちの変化を考える。

【まとめ・創造・表現・実行】（4）

- ・これまでに得た情報を整理し、ごんと兵十の心の距離について、距離メーター（ハートの形を5等分にしたもの）を活用してまとめる。
- ・「二人にとってこの結末は満足のいく結果だったのか」という観点で兵十とごんの気持ちについて自分の意見をまとめ、友達と共有する。
- ・一人一人が読み取ったことをもとに「ごんぎつね」の本の帯を作る。
- ・学級で本の帯を展示し、友達と読み合う。

【振り返り】（1）

- ・単元の学習を振り返る。

【ポイント】

課題発見・解決

児童が感じた疑問から課題を設定し、解決までの計画を立て、主体的に課題解決する力を養うような学習過程に取り組ませる。

単元全体を貫いた活動目標の設定

物語を読んで結末をそのまま受け入れるのではなく、そこに疑問を持ち、叙述を根拠に行動・言葉・様子の三つの観点から、中心人物の心情の変化を読み取ることを目標としている。

他教科との関連

総合「ふるさと探検！ 龍王山」

